

1

第1回 インプラント研究会のご報告

「安全で確実なインプラント治療のために～効果的なCT診断活用」

日時：平成16年12月16日（木）

場所：Forum8

講師：小宮山彌太郎 先生

ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター 所長
東京歯科大学歯科補綴学第三講座 客員教授

去る12月16日にメディカルスキャニング主催の第一回メディカルスキャニング・インプラント研究会を開催し、多くの先生方にご列席いただきました。

第1回目となる今回は、「安全で確実なインプラント治療のために～効果的なCT診断活用」と題しまして、インプラント埋入時のCT診断活用方法について、実際に当クリニックで撮影を行った画像をもとに大変分かりやすく解説いただきました。

ご講演後の質疑応答でも、多くの先生方から積極的な質問を頂戴し、より有意義な研究会となりました。

いつ、どのような目的でCTが必要か？

埋入前 現段階では極端な海馬回の萎縮がない限りMRIのみではアルツハイマー型認知症を診断するには難しく、核医学との組合せが必要である。

埋入後 偶発症が想定される場合、対処法などに必要な情報を得ることができる 自分の資料を作成する目的での撮影は医療従事者として避けなければならない。

CT撮影から何が得られるか？

- 埋入予定部位の骨の断面形態、骨量、骨質などの情報が得られる
- 埋入予定部位に隣接する器官の形態的特長(※)の情報が得られる

※上顎洞、鼻腔、翼状突起との接合部分、切歯管、大口蓋孔、下顎管、オトガイとループ、前歯部への栄養管、隣在歯根の植立 方向ならびに根端の屈曲、骨内の病変、残痕などの残遺物など

インプラント適用全症例にCT撮影は必要か？

上顎 長径の大きなフィクスチャーの選択、意図的傾斜埋入法の可能性、審美性の長期にわたる予知性、骨移植の必要性と予想移植骨量などの情報が必要な場合

下顎 長径あるいは直径の大きなフィクスチャーの選択、歯槽頂の断面形態、審美性ならびに隣在歯との間の歯槽、骨の長期にわたる予知性、意図的傾斜埋入法の可能性、骨移植の必要性と予想移植骨量などの情報が必要な場合

CT診断を用いることによるメリットは？

埋入前 隣在器官への損傷を避けやすい、優れた初期固定を求めやすい、体積の大きなフィクスチャーを選択できる。埋入術式の検討、特殊な手術用具の準備

埋入後 隣在器官への侵襲の程度を把握しやすい。対策、治療計画の立案。埋入後のCT撮影データと、麻痺している部位をプロットし日付を入れた記録などを用意しておくこと、万一、患者からのクレームがあった場合に優位な証拠となる。

お問い合わせ

メディカルスキャニング インプラント会員事務局
☎ 03-5778-2905 (担当 大島 / 赤松)
✉ seminar@medicallscanning.net

MEDICAL SCANNING
メディカルスキャニング